

6月議会は6月11日～27日までの17日間を会期として開催されました。

一般会計増額補正予算（総額43億8118万2千円）を含む議案18件、報告案件14件、承認案件1件、人事案件、議員発議「刑事訴訟法における再審規定の改正を求める意見書案」のすべてが原案どおり可決・同意されました。

補正予算・議案の問題点

住みよい和歌山市にすることが人口を増やすこととなります

移住定住に関わる補助金について、一つは地方就職学生支援のため、和歌山市内で就職する学生へ交通費を支給しようとするものです。また、国への返還金は5年間和歌山市に住むことを条件にした支給であるものの、5年間を待たずに紀の川市に移住されたことから返還が生じたとのことです。市民のために和歌山市を住みよいまちにすることが本来の市の責務であるにもかかわらず、いずれも和歌山市の人口を増やすことが先行しています。本来の市民のまちづくりや福祉の向上に立ち戻るべきです。

戸籍へのふりがな記載は命名権、人格権を侵害する恐れがあります

マイナンバーカードにローマ字記載をするために、戸籍にふりがなが記載されることにより、順次システム



改修が行われています。今後、和歌山市に本籍がある38万人すべての人に「ふりがな情報通知」を送り、1年以内に訂正の届け出がない場合は職権で市が、ふりがなを記入することになります。これまで、戸籍にふりがな記載をしなかったのは、歴史的に人名漢字の読み方を広く許容してきたためで、広範な議論が必要です。

子どもの未来応援ならば、子育て世帯の市民の声を聞き検討を

今年4月1日以降に出生した新生児のいる世帯に“医食同源米”か“木のおもち”のどちらかを贈呈する事業です。今年度の予算では「第3子から木のおもち」と従来通りの予算計上だったが、2か月たたない間に突然の方針転換とな



り、その理由は医食同源米が安価に購入できるということでした。「子ども真ん中社会に向けた意識改革」と銘打ちながら市の都合を持ち込んでいると言わざるを得ない上に、選定せずに1者のみという不透明な契約過程にも納得できません。**マイナ保険証に伴う資格確認書等発行のためのシステム改修**

マイナンバーカードと健康保険証の一体化に伴い資格確認書などを発行するためにシステム改修を行うものです。今後、マイナ保険証を持っている人、持っていない人、持っているがマイナ保険証に対応していない医療機関に係る場合など、いくつもの場面に対応できるように証明書類が発行されることとなります。現状で利用率が約7%と低くこの状況で強行すれば、市民や医療機関の混乱が目に見えており、このまま事業を進めるのではなく市民の立場で、誰もが医療にかかりやすい保険証の構築へと見なおすべきです。

老朽化の点検・改修は適切に

勤労者総合センターの高圧機器、変圧器の取り換えのための費用について、更新時期の目安は15年ないし20年としながら、すでに31年が経過しているとのこと。火災や停電などの事故を未然に防ぐため、老朽化に伴う点検や改修が適切に行われていたのかが問われます。

ライトアップ等に4千万円超



11月～2月までの夜間6時～10時まで和歌山城をライトアップすることをはじめ、ナイトタイムエコノ

ミー推進のための費用だということです。必要性、費用対効果、環境に対する影響等、疑問がめぐえません。

図書利用券としてのマイナンバーカードの本人確認のためのシステム改修

図書貸し出しに係るマイナンバーカード利用についてカードの真正性の確認をするためのシステム改修が必要になったとのことです。マイナンバーカードは任意としながら、利用を前提として広げていくようなやり方は問題です。

再度、自動運転バスの実証運行

全額国の補助金とはいえ、年度途中の補正予算5千万円の計上は拙速だと言わざるを得ません。これまでの検証を含め市民全体の利益を考え、当初予算において計上すべきものです。



「現行の健康保険証を残すことを求める請願」不採択となる

和歌山市社会保障推進協議会が、「政府が2024年12月2日に健康保険証を廃止することに対して、廃止を中止し、現行の健康保険証を残すように国に意見書を提出してください」と、市議会へ請願を提出しました。

本会議の最終日の採決で日本共産党市議団3人、民主クラブ2人、興志クラブ2人の計7人の議員がこの請願に賛成しましたが、反対多数で不採択となりました。

一般質問

日本共産党市議団は、3議員全員が質問しました。

国保の減免措置を活用し

市民のいのちを守って

坂口:国保法44条は、生活に困窮するなど「特別な理由」で医療費の支払いが困難な人の、病院窓口負担を減額・免除できると定めています。しかし、和歌山市は過去10年で1件しか実績がありません。ホームページに「保険料滞納者は原則利用できない」と書いてあることで申請をあきらめた方もいます。国は滞納者も減免対象にするよう通知していることから、不適切な掲載と考えます。

局長:滞納があっても特別な事情がある場合は適用できるため、ホームページの表現は見直しをしていきます。

「無料低額診療」薬代への助成で治療が続けられるように

坂口:生活困窮者が、無料か低額で診療を受けることができる「無料低額診療事業」を、市内2つの病院で行っており、多くの命が救われています。しかし院外薬局には適用されないため、薬代が払えず治療を断念する事態が起こっています。独自で薬代の助成をしている自治体もあり、和歌山市も対応する必要があると考えます。

市長:無料低額診療の課題は国で対処すべきと考えます。薬代への助成は財政確保が必要で現時点では困難です。

ケアマネジャー(介護支援専門員)の人員不足は深刻

坂口:在宅介護が崩壊しかねないほどの人員不足に陥っているケアマネジャーが、際限のない業務以外の仕事、報酬の低さ、業務に支障をきたすほどの研修にさらされています。高額な研修費への補助や研修場所の提供など、市として今すぐ手を打つべきです。

市長:介護支援専門員の不足が介護サービスの提供に及ぼす影響を危惧するところです。介護現場で働く職員の不足等への対策について、引き続き国に要望してまいります。



さかぐち たみこ
坂口多美子議員

入院している視覚障害者の院内移動支援のためのヘルパー派遣を

入院時や退院時、外泊や外出時は、同行援護というホームヘルプサービスが利用できます。しかし、入院中の院内移動については医療保険制度との関係でホームヘルプの利用ができないとされています。

南畑:視覚障害者の入院中の院内移動について、ホームヘルパー派遣対象の拡大を国に要望してはどうか。できないと繰り返すばかりでなく、何かできる支援はないのか考え障害者に寄り添った姿勢が必要です。

局長:院内の移動は医療保険制度の適用となるためホームヘルプサービスは利用できませんが、派遣対象拡大については、国へ要望していけるよう取り計らってまいります。

高齢者見守りシステムの設置が5か月待ち。早期改善を

南畑:市民から「高齢者見守りシステムを設置して欲しいと電話をしたら、50人待ちと言われた」「いつ設置してもらえるのかとても不安だ」と相談がありました。ペンダントを身に付け緊急時に警備会社に連絡する高齢者見守りシステムの申込数が多数で設置が5か月待ちとなっています。実情にあわせた取り組みをすべきです。

局長:設置できる件数の増加とともに、申し込み数や撤去数に応じて必要な方に設置が円滑に行えるよう取り組みます。

孤立死・孤独死の防止策が必要

南畑:市営住宅だけでも過去3年間に7名の孤独死がありました。1人でも孤立死・孤独死をなくすよう関係部局の連携した取り組みが必要です。

局長:孤独死を防ぐために、一人暮らしの高齢者に「高齢者見守りサービス」の啓発と関係部局が把握している情報を共有し、孤立・孤独死の防止につなげていきたいと考えます。



みなみばたさちよ
南畑幸代議員

大阪万博への子ども動員は

命にかかわる問題

咲州コスモタワーから万博会場を視察しましたが、有毒ガスを抜くパイプがあちこちに出ていて異様な光景でした。

森下:ガスによる爆発、交通手段の確保、熱中症対策など安全性が確保されているとは言えない万博への児童生徒の動員はふさわしくありません。

市長:世界中の英知や異なる文化に触れる貴重な機会ではありますが、遠足・旅行等の学校行事については、安全性を最優先に考慮すべきだと考えています。

地権者へ誠意ある対応を

森下:和歌山市上三毛の山林において、地権者の同意を得ずに市が道路をつけた

件について、行政への信頼を失墜させたと考えます。真摯に解決に向けて努力していただきたい。

局長:初動の対応や説明不足等により地権者様到大変不快な思いをさせてしまい、申し訳なく思っております。今後も理解が得られるよう、誠意をもって協議を継続してまいります。

同和行政の闇を公益通報し自死に追い込まれた問題の真相解明を

2020年6月、当時28歳の男性職員が自ら命を絶しました。遺族の公務災害認定の求めが棄却され、現在不服申し立てを行っています。

森下:男性職員は「平井子ども会における補助金申請の捏造をすることは自分自

身も犯罪に加担することになる」と休職願いで告発後、公益通報しました。

なぜ、自死しなければならなかったのか。彼の勇気を無駄にせず、無念を晴らすためにも徹底した真相解明を求めます。

市長:不正を指摘する病休願いを見て大変な問題が起きていること、教育委員会からすぐに報告がなかったことに衝撃を受けました。勇気を出したにもかかわらずその思いを救えず彼が公益通報せざるを得なかったことは残念でなりません。



もりしたさちこ
森下佐知子議員

日本共産党市議会だより 2024年7月16日発行

日本共産党和歌山市議会議員団 Tel 073-435-1113
ホームページ X(旧Twitter)

Fax 073-421-4181
Instagram

E-mail jcpwkym@apricot.ocn.ne.jp



日々の活動は、
「日本共産党和歌山市議団」で検索、
又は、左のQRコードからごらんください。